

所属・職位	福祉健康科学部 福祉健康科学科 社会福祉実践コース・准教授	
氏名	橋本 美枝子 (Hashimoto Mieko)	
取得学位	修士 (社会福祉学)、淑徳大学、1996年3月	
SDGs目標		

研究分野	社会福祉学、精神保健福祉
研究キーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習教育、省察的思考、内発的動機づけ
研究内容	<p>省察的思考に基づくソーシャルワーク実習教育方法の研究</p> <p>精神保健福祉士は、社会福祉学を基盤にソーシャルワークを実践する。それゆえ筆者は、精神保健福祉士と社会福祉士の実習を分断せず、学生がすでに実施した社会福祉士の実習体験を省察・言語化し、精神保健福祉援助実習の計画・実施に反映させる実習指導を実践してきた。実習指導のねらいは、実習を媒介に学生が事前指導・実習指導・事後指導を受ける過程で、ソーシャルワーカーに必要な知識、価値、スキルを獲得し向上させることである。本研究は、かような実習教育実践の効果を検証し、ソーシャルワーク実習指導の教育方法を確立することを目的としている。</p> <p>学生が作成した実習計画書および実習指導過程を分析すると、下記のことが言える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習に対する動機付けの明確化 および強化 内発的・内省的な実習計画ゆえに、学生は目的・目標を省察しつつ実習・指導に望むことができる。また、形骸化しがちな実習目標を意識した実習の実践と評価が可能になる。 2. 実習指導を媒介としたソーシャルワークスキルと知識の獲得 実習体験の言語化、分類・作図によって自らの学習ニーズを可視化し、他者にプレゼンテーションすることで、言語化スキル向上の機会となる。また、言語化を通して、専門知識を深めるとともに、誤った理解を修正する機会となる。 3. ソーシャルワークプロセスの体験的学習 学生が自身の学習ニーズに気づくために情報（実習体験）を整理・分析し、計画し、実行・評価する過程は、ソーシャルワークの過程そのものである。学生には、実習で事例研究を課しているが、その前に自分の成長に必要な実習計画を立てる作業は予行演習となる。 4. 実習指導を媒介としたソーシャルワークの価値・視点の獲得 自らの実習体験をストレングス視点で正当に評価し、ストレングスを活かした実習計画・実施をする経験は、実習で関わるクライアントのストレングスを発見し、それを活かしてエンパワメントをはかるソーシャルワークの価値と視点に合致。
研究業績・アピールポイント	<p>従来の実習教育では、実習配属施設に合わせて実習計画を立てる傾向にある。しかし筆者は、個々の学生に自身がソーシャルワーカーになるために、実習を通して何を習得したいのか、実習体験の省察をもとに実習目標を明確化し、その後に配属先を決定する。実習計画書は、先に立てた実習目標を基に配属機関の特性に応じて微調整する。この逆転の発想が、学生が自分の学習ニーズを充足させるための実習計画および実習の実施・評価を可能にする。</p> <p>この省察的思考に基づくソーシャルワーク実習教育方法の研究自体は、まだ取り組み始めたばかりである。</p>